

2025年 2月3日(月)

大阪のまちづくりグランドデザイン まちづくりセミナー

2050年を目標とした大阪全体のまちづくりの方向性を示す「大阪のまちづくりグランドデザイン」の推進に向け、大阪におけるまちづくりや事業に関心のある事業者や団体の方を対象に、現在進められている具体的な取組などを紹介し、まちづくりへの参画促進につなげる「大阪のまちづくりグランドデザイン まちづくりセミナー」を、2月3日に大阪市都島区のQUINTBRIDGE（クイントブリッジ）※で開催しました。

当日は、民間事業者など多くの方が来場し、有識者からの基調講演や、市担当者からのプレゼンテーション、まちづくり紹介ブースでの情報発信などを行いました。

※NTT西日本が運営するオープンイノベーション施設

セミナーのプログラム

13:00 : 開場・受付開始

13:30～: QUINTBRIDGEのご紹介 (NTT西日本)
開催にあたってのあいさつ (大阪都市計画局)
本日のプログラム説明 (大阪都市計画局)

13:45～: **プログラム1：基調講演**
「将来へつながる大阪のまちづくり」
講師：木下 光 氏
(関西大学 環境都市工学部 教授)

14:30 : 一休憩

14:40～: **プログラム2：大阪のまちづくり紹介**
①中百舌鳥イノベーション創出拠点の形成 / 堺市
②新しい社会空間モデル
～(仮称)地域共生ステーション整備～ / 高槻市
③南河内地域のまちづくりについて / 大阪都市計画局
④空飛ぶクルマの社会実装に向けて / 大阪府商工労働部

15:50～: まちづくり紹介ブース

16:30頃: 終了



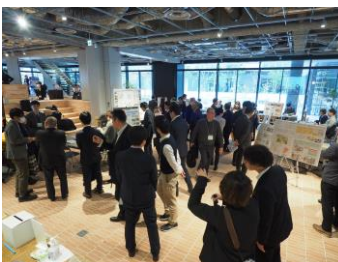
受付の様子



開催のあいさつ
(大阪都市計画局長)



QUINTBRIDGE紹介の様子
(NTT西日本下川氏)



会場の様子

プログラム1

基調講演

「将来へつながる大阪のまちづくり」

関西大学 環境都市工学部 木下教授が登壇されました。木下教授から、国内外の都市（コペンハーゲン・シンガポール・兵庫県養父市）の事例について、実体験を交えながらご紹介いただき、今後の大阪のまちづくりに活かせる見識についてお話いただきました。

「Well-being」（身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること、幸福）という観点をとらえ、まちづくりにおいて、これをミクロの視点だけで議論するのではなく、マクロな視点（まちづくりにおける計画）へうまく繋いでいく必要があるというメッセージや、地域が生き残っていくには横断的に多様性のあるチームでプロジェクト等を進めていくことが重要であることなどをご講演を通じて参加者に伝えていただきました。



基調講演の様子
(関西大学 環境都市工学部 木下教授)

●ミクロとマクロ、社会基盤と暮らしをつなぐ計画論

<コペンハーゲンの事例から>

コペンハーゲンは自転車交通が発達した都市で、ヤン・ゲール氏による都市計画のもと、歩行者中心のまちづくりが行われています。暮らしが自転車とともにあり、自転車置き場一つとっても、美しく自転車を置く、停めるということを感じさせられる都市風景になっています。人々が多様な場所で自転車とどのように暮らしていくのか、これは大阪にとっても非常に重要なことだと思います。

ヤン・ゲール氏は、様々な観点から調査することで、普段見えていない都市の有り様、人々の暮らしにあるもの（ミクロ）を計画（マクロ）に押し上げていくことが非常に重要であると述べています。計画策定にあたっては、調査を反映するプロセスがあり、必ず「Public Life」にどう関与していくか考えながら計画しているのです。上位計画があらゆる分野を飛び越えて横断的な計画を立てているからこそ、自転車交通だけでなく、そこに関連する暮らしや建築、水辺空間などが連続してまちに反映されているように思います。

<シンガポールの事例から>

シンガポールは水辺を繋ぎ、まちを混ざていこうとしています。土地利用指針として、コンセプトプランという国の長期戦略と、土地利用の規定をするマスタープランの2つで都市計画全体をコントロールしています。マリーナベイサンズ周辺は道路と商業施設とまち全体の回遊性を一体的に計画して親水公園まで繋いでいます。そして、元金融街の土地利用を変更して複合利用を許可し、オフィス以外に住宅も増やしています。次に、上位計画と建築計画をつなぎ、公共機能を複合させるプログラムです。「ホーカーセンター」という屋台などが集まった施設にも複合利用をあてはめ、公園やスポーツ施設等との複合施設とすることで、観光資源やコミュニティ形成等の様々な役割を担う場として見直されています。

●横断する多様性のあるチームを作る

<兵庫県養父市の事例から>

兵庫県養父市のやぶ市民交流広場（愛称：YBファブ）は完成するまで約6年関わった事業です。当初から「高校生にとっての居場所になって欲しい」という思いがあり、現在では多くの高校生が勉強できる場所となっていて、感慨深いものがあります。CM（コンストラクション・マネジメント）委員会が関わりながら、公共事業では関西初のECI方式（設計段階から施工者が参画し技術協力する方式）で開発した事業です。設計・施工と進む度に関係者が役割とポジションを変え、どう関われば柔軟で意味のある役割を果たしていけるのかを試みた事例だと思います。

いま私たちが取り巻く状況をどうやってWell-beingにつなげていくのか。デザインや計画、環境を創っていくには、少しずつ関わりの円の内に多彩な人材を入れていくためのチームを作っていくことが重要ではないかと思っています。今大阪がどこに向かって頑張っているのかが体感できれば、大変魅力的な大阪が生まれることになると思いますし、多様なチームを生み出すためにも、今日のセミナーでのお互いの交流があるのだと思います。

プログラム2 「大阪のまちづくり紹介」

堺市 中百舌鳥イノベーション創出拠点の形成

中百舌鳥エリアは、南大阪で最も乗降客数が多い中百舌鳥（なかもず）駅、大阪公立大学、インキュベーション施設等が立地し、イノベーションの創出につながる多様なひとが集うポテンシャルを有しています。一方で、駅間の乗り継ぎの利便性が低く、駅周辺に滞留する人が少ないことが課題であり、ひとが活動・交流しやすい環境を整えることが必要です。そこで、多様な主体の共通指針として令和6年5月に「中百舌鳥駅周辺活性化基本方針」を策定し、民間投資の促進による都市機能の誘導を図りたいと考えています。駅前広場の再編をリーディングプロジェクトとして、定期借地により乗継改善やイノベーション創出に資する拠点施設の整備等を実施する民間事業者の公募を予定しています。



堺市 建築都市局 都市整備部理事兼
中百舌鳥拠点整備担当課長
加藤 氏

高槻市 新しい社会空間モデル～(仮称)地域共生ステーション整備～

今回整備を予定している川添地区は、周囲がほとんど住宅地という中で、人口急増期から約50年が経過し、経済活力の低下や地域コミュニティの活力減退などの課題が表面化しつつあります。今後も見込まれる人口減少等に対応するため、この地域に世代を問わず誰もが元気に過ごせる地域共生社会モデル空間を整備し、この場所での取組や成果を市全域に広げることがをめざしています。この事業自体はすでに始まっており、昨年12月に実施方針等を公表しました。事業手法は、PFI（BTOと指定管理者制度）とし、2025年4月からは事業者の公募が始まります。地域共生センターでは、生活利便施設やギャラリー・ショップ、XR対応の貸室、インクルーシブ広場などの整備を想定しています。



高槻市 健康福祉部
地域共生ステーション推進官
野谷 氏

大阪都市計画局 南河内地域のまちづくりについて

南河内地域の魅力として、大阪都心部へのアクセス・利便性の高さ、豊かな自然と豊富なフルーツ、そして歴史資源の集積が挙げられます。ぜひ皆さんに知っていただき、訪れてほしいと思います。一方で、地域には多くの課題も存在します。少子高齢化社会や公共交通の問題など、早急な対策が必要です。そこで、南河内まちづくり検討会を設立し、地域連携まちづくりや地域プロモーションを推進しています。また、民間企業とのつながりにも力を入れており、取組ロードマップの最終年度である2025年度に向けて様々な取組を進めています。今後も民間企業や大学、団体の皆様の力を借りながら、持続可能なまちづくりを進めていきたいと考えています。



大阪都市計画局
拠点開発室 戦略拠点開発課
大平 氏

大阪府商工労働部 空飛ぶクルマの社会実装に向けて

電動、自律飛行、垂直離着陸といった特徴を有する「空飛ぶクルマ」の社会実装に向けた取組を進めており、関西各地域が連携して観光地などを結ぶ運航ネットワークの形成をめざしています。空飛ぶクルマの実現において重要となるものの1つが、離着陸の場となるパーティポートであり、交通結節点である主要駅やビルの屋上、商業施設等の駐車場、ウォーターフロント・リバーフロントなどへの整備に向けた取組を進めています。

空飛ぶクルマの実現により、機体・サービス・インフラに関連する新たなビジネスが創出されるとともに、「空飛ぶクルマを活かしたまちづくり」が実現することが期待されています。



大阪府商工労働部 成長産業振興室
産業創造課
佐々田 氏

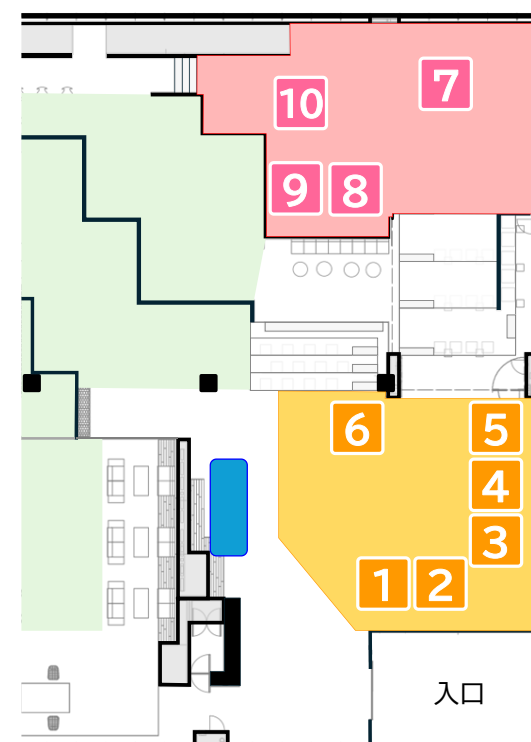
●まちづくりブースの紹介内容

府内自治体等による、以下のIDブースを設け、担当者からの具体的な取組紹介や、来場者との情報交換など、活発な対話が行われました。



まちづくりブースの様子

○まちづくりブースの配置図



○まちづくりブースの出展者

- 1 堺市 中百舌鳥イノベーション創出拠点の形成の取組
- 2 枚方市 枚方市駅周辺再整備
- 3 寝屋川市 かやしまりノベーションプロジェクト
～萱島駅周辺のまちづくり～
- 4 柏原市 柏原市活性化の取組
(柏原駅東地区、大阪初スマートインターチェンジ等)
- 5 高石市 高石駅・羽衣駅周辺のまちづくり、
浜寺水路周辺エリアの取組
- 6 高槻市 新しい社会空間モデル
～(仮称)地域共生ステーション整備～
- 7 大阪府商工労働部 空飛ぶクルマの社会実装に向けた取組
- 8 南河内地域まちづくり検討会 南河内地域のまちづくり
- 9 大阪都市計画局 ニュータウン再生の取組
- 10 大阪都市計画局 新大阪駅周辺地域のまちづくり



まちづくりブースでの対話の様子